

### 3-3 発掘すれば、おもちゃだって出土する！？

①

九州歴史資料館 飛び出すむかしの宝物 解説シート

## 食器のミニチュア

江戸時代にもあったままごと遊び



いせき 西新町 遺跡  
にしじんまち 遺跡

これらのミニチュア食器は、桃の節句の雛飾りのひな壇に飾られたり、人形遊びのままごとに使われたもので、江戸時代に使われていた陶磁器の形や文様を精巧に写しています。

「ままごと」は漢字で「飯事」と書き、炊飯や食事などの模倣遊びで、日本だけでなく世界中で同じような遊びがあります。遊びの発祥はよくわかりませんが、江戸時代には庶民の間にもままごと専用の陶磁器が作られるようになりました。

ままごと遊びを通して、食卓での作法や来客に対する礼儀、交際の仕方などが自然に身に付くことから、女兒の家庭教育の道具として考えられていたようです。

もう1つの女の子に人気の遊びである人形遊びは、江戸時代では紙や布で作った姉様人形が一般的ですが、土人形でも遊んでいたようで、子供の墓にも副葬されています。本品は髪の毛がないように見えますが、本来は頭をおかっぱ形に黒く塗ったものでおぼこ人形といわれます。

精巧に作られたミニチュアからは、現代と同じように小さなものを愛でる江戸時代の人たちの心をうかがうことができます。



3-3 発掘すれば、おもちゃだって出土する！？

①



ひょうれつもん  
氷裂文碗

通常の大きさの碗にもある氷が割れた文様を写しています。



羽根つき文碗  
女の子の遊びの  
羽根つきを線刻  
しています。



皿

小さいながら見込みに  
水草文が描かれています。



陶器の徳利



ひょうたん形  
陶器の徳利



軟質陶器の  
梅枝文爛徳利



陶器の亀甲文土瓶  
江戸時代のやかんで、  
通常サイズの陶器に  
使う緑釉の流し掛け  
まで再現しています。



焜炉

現在のコンロと同じで、七輪  
のように使うもので、内部ま  
で精巧に作られています。



いぬ  
狗抱き人形と犬



参考文献：福岡県教育委員会 2001 『西新町遺跡Ⅲ』 福岡県文化財調査報告第 157 集  
福岡県教育委員会 2008 『西新町遺跡Ⅴ』 福岡県文化財調査報告第 218 集  
福岡県教育委員会 2009 『西新町遺跡Ⅸ』 福岡県文化財調査報告第 221 集

写真：当館撮影

### 3-3 発掘すれば、おもちゃだって出土する！？

②

九州歴史資料館 飛び出すむかしの宝物 解説シート

## めんがた どろめんこ 面摸・泥面子・鳩笛

江戸時代のおもちゃ

泥面子



めんがた はんiny  
面摸の般若

鳩笛

出土遺跡 西新町遺跡

中世までの子供のおもちゃは、独楽や羽子板など祭祀的な意味合いのあるものの以外は、自然の木や石を使ったものや日用品の破片を加工して使っていました。江戸時代になるといろいろなおもちゃ専用品が作られるようになりました。遺跡から出土するものでは面摸や泥面子があります。

「面摸」は型に粘土を当てて型通りに抜き取る遊びで、この面摸で作った薄い面を「芥子面」といい、唾で指の腹につけて指人形にしていました。博多おはじきはこの流れを汲むものです。

この芥子面を、大人がコインを使う「銭打ち」に使った遊びを「面打」といい、面打専用に使われた円盤状の芥子面を「面子」と呼ぶようになり、土製品は「泥面子」と呼ばれています。泥面子は江戸時代から明治初期まで流行し、鉛メンコの登場により衰退しました。その後、鉛メンコは鉛中毒になる恐れがあることから販売禁止となり、紙メンコに引き継がれました。

鳩笛は本来狩りでキジバトを呼び寄せるのに使うものですが、小児用で夜泣きや引き付け、疳の虫を封じるおなじないとして出産祝いの贈り物にもされていました。

下線の付く言葉の解説は裏面にあります

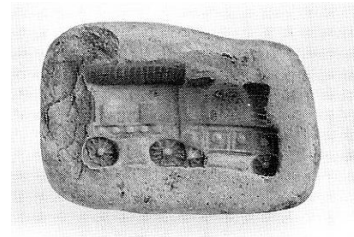


### 3-3 発掘すれば、おもちゃだって出土する！？

#### ②

#### めんがた 面模

近年まで地方によっては「型抜き遊び」としてお祭りの屋台で行われていました。その遊び方は、型に粘土を押し当て、上手に抜き取れば景品がもらえるというものでした。般若の面模は見本とセットになっているので、子供たちの間で遊ぶものではなく、屋台で使われたものでしょう。先に簡単な型で成功させておいて、難しいものに挑戦させるという商売をしていたそうです。



福岡市吉塚本町遺跡出土  
蒸気機関車の面模

#### どろめんこ 泥面子

遊び方にはいろいろあったようですが、大人が銭を投げて遊んだ「穴一」<sup>あないち</sup>というギャンブルから発展したと考えられています。「よせ」、「立ちぐわえ」、「升入れ」<sup>ます</sup>等の遊び方があり、同じ遊び方が紙メンコまで引き継がれました。

#### 「穴一」

地面に小さな穴をあけ、約1メートル離れた線の外から穴に向かって泥面子を投げ、穴に入ったら自分の手に戻します。入らなかったらそのままにしておき、次の番のものが面子を投げてこれに当てたらそれを取ることができるというもので、ビー玉に遊びに近いものでした。

#### 「寄せ」

地面に小枝をさし、数メートル離れた踏切線から小枝を目掛けて泥面子を投げ、小枝の一番近くに投げた者が勝ちとし、他の泥面子を全て取るというゲームです。

#### 「立ちぐわえ」

は、地面に「女」の字に似た三角形を描き、その中に泥面子を一つ置き、図の脇に立って目の下あたりの高さから泥面子を落とします。置いた泥面子に重なれば「くわえ」た状態になり勝ちとなります。

#### 「升入れ」<sup>ます</sup>

地面に同心円を四角形にしたような「三升」<sup>みます</sup>文を描きます。この三区画を外側から甲・乙・丙と呼び、この図から数メートル離れた踏切線から区画を狙って泥面子を投げます。線にかからずに甲に入れば一個、乙に入れば二個、丙に入れば三個がそれぞれ他の人から泥面子がもらえます。

福岡県では流行しなかったのか、遺跡からほとんど出土しませんが、関東では害虫避けのまじないとして畑に撒く習慣もあったため大量に出土します。

参考文献：福岡県教育委員会 2001『西新町遺跡Ⅲ』福岡県文化財調査報告第157集  
福岡県教育委員会 2008『西新町遺跡Ⅴ』福岡県文化財調査報告第218集  
福岡県教育委員会 2009『西新町遺跡Ⅸ』福岡県文化財調査報告第221集  
福岡県教育委員会 1992『吉塚本町遺跡』福岡県文化財調査報告第97集

写真：当館撮影